

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立稲生高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		知・徳・体の調和がとれた『社会に役立つ人材』を育成する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>○自分自身を見つめ直し、夢に向かって、何事にも精一杯挑戦する意欲的な生徒。</p> <p>○基本的な生活習慣を身につけ、社会のルールやマナーを守り、命の大切さや他人を思いやる心をしっかりと持っている生徒。</p> <p>○部活動や生徒会活動、学校行事などに積極的に参加し、コミュニケーション能力を高めることができる生徒。</p>
	ありたい 教職員像	<p>○目指す学校像の実現のために、一人ひとりの生徒の適性、能力に応じた学習指導や生徒指導にカウンセリングマインドに基づき、粘り強く指導できる教職員。</p> <p>○風通しの良い学校風土と、教職員相互の対話により、学校や生徒の課題を共有し、一致団結して課題解決を図ることができる教職員。</p> <p>○自らの教育力の向上のために、ベンチマーキングや研修会等に参加し、教育活動により意欲的に取り組むことができる教職員。</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> 安心で快適な学習環境の中で、基礎学力の定着と希望進路の実現。 学校行事や部活動の充実。</p> <p><保護者> わかりやすい授業による学力の向上と希望進路の実現。自己教育力と規範意識の醸成。部活動の活性化。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p><保護者> 生徒や学校の適切な情報提供。</p> <p><中学校> 卒業生や学校の情報提供。</p> <p><地域住民> 開かれた学校。地域活動への参加と協力。地域に貢献できる人材の育成。</p>		<p><保護者> 本校教育活動への理解と参画。親と子のコミュニケーション。</p> <p><中学校> 効果的な指導のための情報共有と緊密な連携。</p> <p><地域住民> 本校教育活動への理解と協力（清掃活動、部活動）。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動に参加してくれた生徒は生き生きしていた。これまでの活動を発展させることで、さらに生徒の自主性も引き出せる。 ・「命の大切さを育む教育」の取組を生徒だけでなく教員も学ぶことで、生徒対応にもプラス面として出ている。 ・学校の情報が地域や関係者評価委員にまだまだ伝わっていないと感じる。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に自信や目的意識が持てない生徒も見受けられることから、一人ひとりの自己肯定感を育み、学習意欲を高め、基礎学力の向上を図るような授業改善等を行うことが必要である。 ・基本的な生活習慣や規範意識の醸成を図り、相手の気持ちを推し量る心や態度を育成するとともに、すべての人権に対する感覚を高める必要がある。 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の家庭環境や特性、能力に応じた、学習指導や生徒指導をよりきめ細やかに行うために、組織体制や教職員の指導力向上に計画的、継続的に取り組む必要がある。 ・学校の現状や生徒の近況を、絶えず保護者や地域に情報発信することで、情報共有を図り、理解・協力・支援を受けるよう取り組む必要がある。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの学科・コースに応じた学習内容を充実させることで、より意欲的に生徒自らが学ぶ姿勢が身に付くようにする。 ・将来を見据えたキャリア教育をはじめとした進路指導の充実により、自己有用感や自己肯定感が高まり、希望進路の実現と定着を図る。 ・正しい倫理観や道徳観を身につけ、他者を思いやり、人権を尊重する意欲や態度を育成する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生徒の能力・適性に応じた授業内容の工夫や公開授業や授業研究を行う等の授業改善を進める。 ・学校の魅力をPRするための広報活動を工夫改善する。 ・教職員のやりがい感、満足度を高めるために、会議の効率化を図るとともに、総勤務時間の縮減等に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	学ぶことの興味関心が高まる取組 【活動指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・1学年 基礎学力トレーニングの実施年間15回以上 ・2学年 基礎学力トレーニングの実施年間15回以上 朝学習の実施 ・3学年 長期休暇中の課外の充実 【成果指標】 ・漢字検定合格率向上 ・学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、計画通りに実施 ・2学年漢字検定合格率12%に低下 	◎
キャリア教育の充実と進路実現	2年生のインターンシップの実施 【活動指標】 ・参加生徒の割合30%以上 【成果指標】 ・参加生徒の満足度90%以上 進路ガイダンス、個別面談の実施 【活動指標】 ・1, 2年生は年間3回以上 ・3年生は年間5回以上 【成果指標】 ・希望進路実現100%	<ul style="list-style-type: none"> ・参加生徒25% ・生徒満足度90%以上 ・進路ガイダンス 3学年とも達成、個別面談 3学年のみ達成 ・希望進路実現100% 	
体育科の活性化	体育科生徒による、市内小中学生を対象に指導実習 【活動指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校訪問5校以上 【成果指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生及び体育科生徒の満足度85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校2校、中学校3校へ、のべ9回訪問し、満足度も高かった。 	
資格取得の促進	【成果指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・情報コース生徒の商業・情報関係資格取得者の増加 ・全商検定1級資格取得者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理検定1級取得者5名増加 ・ビジネス文書、珠算・電卓実務検定資格取得者減少 	

基本的な生活習慣や規範意識の醸成	全校集会、学年集会での訓話や全教職員による指導の徹底 【活動指標】・各学期2回の全体指導、頭髪服装指導 【成果指標】・学校遅刻、授業遅刻の昨年度10%減少 ・指導件数の昨年度10%減少	・学校遅刻微減、授業遅刻20%以上減少 ・指導件数60%以上減少	※
人権意識の育成	人権を尊重する意欲・態度と正しい道徳観の育成 【活動指標】 ・各学期1回の講演及びLHRでのソーシャルスキルトレーニング(SST)の実施 ・人権デーの実施	・1学期(いじめ)、2学期(障がい者理解)、3学期(外国人理解)に人権講話を実施、人権HR及びSSTを毎学期実施 ・11月に人権デーの中で、講話(命の大切さ)を実施	
部活動の活性化	運動部、文化部活動の奨励 【成果指標】 ・県総体総合20位以内 ・全国、東海大会出場者増加、県内大会入賞者増加	・県総体男子16位、女子21位 ・全国大会出場者のべ26名 県内大会等の入賞者192名と増加	※

改善課題

- ・学習習慣の定着に向けての、各学年、各教科の取組の工夫改善と段階的指導の必要がある。
- ・生徒指導案件は減少したものの、学校遅刻などの基本的習慣の確立と自転車マナー指導(スマートフォン操作等)の必要がある。
- ・県内唯一の体育科として、魅力ある授業の実践や部活動の活性化とともに、生徒が指導者になるための知識、技能を取得させる取組を工夫改善する必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学校の魅力化	体育科、普通科類型、情報コース類型の特色あるカリキュラムの検討 【活動指標】 ・各学科、コースの学習内容の充実に向けた工夫、改善 ・関係機関、団体との連携調整	・特色あるカリキュラムや施設整備、備品の確保等の環境整備を県教育委員会、地域の企業と連携調整を行った。	◎
授業力の向上及び資質向上	授業公開による授業改善、校内研修の実施 【活動指標】 ・授業公開、教員相互の授業見学を年間2回実施 【成果指標】 ・授業満足度80%以上	・授業公開、授業見学とも1学期、2学期に実施 ・授業満足度85%以上	※
情報発信による地域、保護者との連携	学校ホームページやフェイスブック、きずなネットの活用による情報発信、地域活動との連携 【活動指標】	・計画的かつ迅速に活動を発信(特に、きずなネット	

携促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内外の活動を随時、迅速に発信 ・ 地域活動に参加、協力 	の活用で保護者への周知) ・ 稲生地区の8月サマーフェスティバル、11月防災訓練、収穫祭に参加協力	
教職員の満足度の向上	総勤務時間の縮減及び各種会議の効率化 【活動指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月1回の定時退校日、週1日の部活動休業日を設定 ・ 教職員年間休暇取得日数を昨年度比平均1日以上増加 ・ 各種会議時間を60分以内に短縮 ・ 時間外勤務時間の削減 昨年比10%減 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画通り実施 ・ 休暇取得日数昨年度比、0.5日増加 ・ 会議時間60分以内73% ・ 時間外勤務時間昨年比40%増加 	※
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 普通科類型、情報コース類型の授業充実のために、自動車工業類型、介護福祉類型、食物類型では、施設設備の充実や進学類型、キャリアアップ類型、情報コース類型では、学力向上や資格取得のための取組を工夫改善する必要がある。 ・ 職員の働き方改革に向けての意識改革及び業務の検証精査をする必要がある。 			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力向上、学習習慣の定着のための、新たな具体的な数値目標を設定してみてもどうか。 ・ インターンシップに関して、企業や事業所の評価や満足度を指標にすることで、より改善課題が明確になるのではないか。 ・ 防災訓練などの地域活動に生徒が参加できるシステムが作れないか。 ・ 総勤務時間の縮減の意図は理解できるが、部活動の時間を削減することで学校の魅力化や活性化にマイナスの影響が出ないか。
---------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導の充実においては、日々の授業改善や各教科のさらなる工夫により、生徒自らが学習をしようとする意識を高める必要がある。 ・ 普通科類型の企業実習を見据えて、インターンシップの新たな企業・事業所の開拓等により、生徒の魅力が高まる取組にする必要がある。 ・ 競技スポーツ、生涯スポーツ等、幅広くスポーツの価値や魅力を活かした授業改善や工夫により、体育科の魅力化、活性化につなげる必要がある。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との連携を図るために、防災訓練の取組などの改善を図る。 ・ 教職員のやりがい感や満足度が高まるための、効果的、効率的な総勤務時間の工夫改善を進める必要がある。